

水木しげる氏

表紙絵

＝お～い 一反もめん＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|-------------------------------------|-----|
| ・ 特集：令和7年度子どもの読書活動についてのアンケート結果報告 .. | 2～3 |
| ・ 令和7年度子どもの本に親しむ会 | 4 |
| ・ 利用者懇談会報告 | 5 |
| ・ 市民のおすすめ本 | 6 |
| ・ イベントスケジュール | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | 8 |

令和7年度

子どもの読書活動についての アンケート結果報告

図書館では以下のとおり、子どもの読書活動についてのアンケートを行いました。
回答にご協力いただきありがとうございました。

調査期間：令和7年9月8日（月）から10月10日（金）まで

調査目的：（１）調布市の子どもたちの読書活動の現況及びニーズ等を把握するため
（２）子ども・若者、子育て当事者の意見を聴取し、第5次調布市子ども読書活動
推進計画策定に向けた検討資料とするため

調査対象：（１）市内関連施設を利用する乳幼児の保護者
（２）市立小学校に通う小学1・3・5年生の保護者
（３）市立中学校に通う中学2年生
（４）市内都立高校に通う高校2年生

回答件数：乳幼児の保護者 285件／1261件（回答率約23%）
小学生 1310件／5712件（回答率約23%）
中学生・高校生 1410件／2220件（回答率約70%）

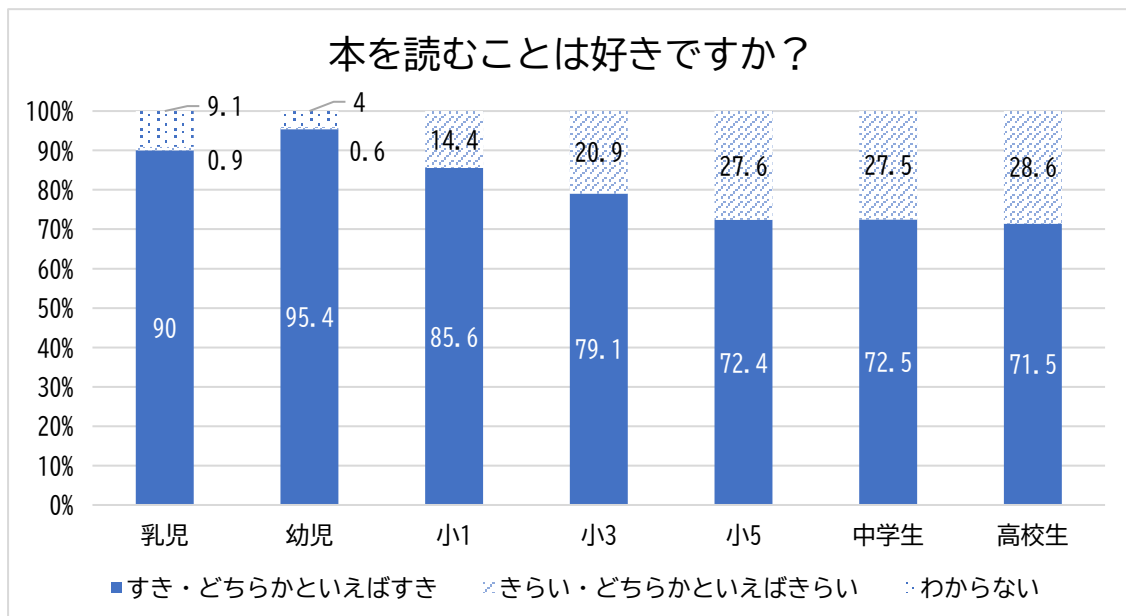
調査方法：（１）乳幼児
図書館、庁内の子ども関連施設を通して回答フォームのQRコードを載せた
チラシを配布。
（２）小学生
回答フォームのURLを「すぐる」(保護者向け情報配信アプリ)にて配信。
子どもの意見を聞き取りながら回答してもらった。
（３）中学生
本人の所持する端末に回答フォームのURLを配信。
（４）高校生
本人の所持する端末に回答フォームのURLを配信、または紙のアンケート
用紙を配付。

調査内容：子どもの読書状況・読書環境について、図書館の利用状況及び要望、特別な配慮
が必要な子どもへのサービスの認知度、本についての情報収集方法など

■ ■ ■ アンケート結果の一部をご紹介します ■ ■ ■

【本を読むことは好きですか？】

どの年代でも、70%以上の方が「本を読むことが好き」と答えています。



【市立図書館に大事だと思うものは何ですか（特に大事だと思うものを最大3つ）】

クイズです

第1位は乳児・幼児・小学生・中学生で同じ回答でした。
次のうち、どれでしょうか？ ※答えはページの下部にあります。

1. たくさんの種類の本がある
2. 落ち着いて本が読める
3. 友達や家族といっしょに本を楽しめるスペースがある
4. おすすめの本のリストや展示など、本を紹介してくれる
5. 長い時間でも過ごしやすい空間である

その他、アンケート結果の詳細は、
図書館ホームページでご覧いただけます。

<https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/infoevent?pid=14406>



図書館ホームページ
アンケート結果

今回のアンケート結果をふまえ、
子どもたちの読書活動の推進に、
より一層取り組んでまいります。



ご協力
ありがとうございました！

正解は、**1. たくさんの種類の本がある** です。

高校生の第1位は、図書館ホームページでアンケート結果の詳細をご覧ください！

夢かうつつか妖怪か ～本は不思議への扉～

令和7年11月29日（土）、児童文学作家の富安陽子さんをお招きして、ご自身の作品がどのように生まれるのかについてお話しいただきました。講演の一部を紹介します。

●子どもの本とは

子どもの本と大人の本の一番の違いは、子どもの本は、読者が成長するということです。そのため、子どもの本は年齢別に作られており、読者の成長に合わせて内容や言葉が変化します。例えば、幼児向けの絵本ではひらがなや簡単な言葉を使い、小学生向けの本では学年ごとに、漢字にルビを振る箇所が変わるなどの工夫をしています。

●物語の生まれるところ

物語は、夢から思いつくことがとても多いです。例えば『オニのサラリーマン』（福音館書店）は、赤オニがサラリーマンとして働く夢から生まれました。私がどうして物語を書く世界に入ったかという、家族の影響が大きくありました。富安の家の人たちは、みんな「ほら吹き」でした。特に祖母は、実名や地名を用いたリアルな怪談話を語ってくれました。父親もたいへんな「ほら吹き」でした。子どもたちがまだ小さかったころ、^{しまんとがわ}四方十川を「ヨンマンジュウガワ」と言い、「大きな饅頭が流れてくる。拾って食べたら美味しかったから今度お前たちも連れて行ってあげるよ」と言っていました。祖母から聞いた話をもとに、『へびのニョロリンさん』（童心社）という物語も生まれました。この物語は、祖母が語った家に住み着いた大蛇の話をもとにしていて、家族のエピソードが創作のインスピレーションにもなっています。

当日は、富安さんによる絵本の読み聞かせがありました。著作を見せていただきながら、画家の方とのやりとりや、言葉のリズムや工夫についてお話しいただきました。



© Masashi Asada



富安 陽子（とみやす ようこ）氏

児童文学作家。『クヌギ林のザワザワ荘』で日本文学協会新人賞、小学館文学賞受賞。

『やまんば山のモッコたち』でIBBYオーナーリスト2002文学賞に選定される。『盆まねき』で野間児童文芸賞を受賞。おもな作品に、『まゆとおに』『菜の子先生がやってきた!』『妖怪一家九十九さん』『シノダ!』シリーズなどがある。大阪国際児童文学振興財団理事長。



利用者懇談会報告



図書館では全3回の利用者懇談会を行いました。各回とも活発に意見を出していただき、皆様の声を直接伺うことができた貴重な会になりました。詳しい内容は、図書館のホームページで公開しています。利用者懇談会でいただきました様々な意見などを活かし、より良い図書館になるよう目指してまいります。

1. 図書館利用者懇談会

テーマ：調布を知るなら地域資料！～知る、触れる、楽しむ はじめの一步～

内容：第一部 図書館で収集・保存している地域資料について、実際に所蔵している資料を紹介しながら、種類や活用方法を説明

第二部 参加者の図書館活用方法や図書館への要望・質問などを含めた意見交換

	実施日	会場	参加者数
第一回	令和7年11月22日(土)	文化会館たづくり	4人
第二回	令和7年11月27日(木)	調和小学校地域開放会議室	3人

参加者からの主な意見：

- ・登録者の減少傾向についてどう考えているか
- ・本を借りたり、読書会に参加したりして楽しんでいる
- ・古い資料はデジタル化して保存できないか
- ・週刊誌等の館内閲覧期間を延ばしてほしい
- ・図書館の開架以外にある資料の探し方が知りたい

2. 利用支援サービス利用者懇談会

内容：令和6年度の利用状況報告、利用者によるスマートスピーカーでのサピエ図書館操作（実演）、利用者からの日頃の感想や要望

実施日	会場	参加者数
令和7年11月6日(木)	文化会館たづくり	利用者13人、協力者13人

参加者からの主な意見：

- ・DAISY図書での読書を大変楽しみにしている、生活の一部になっている
- ・図書館から情報が届きにくい人に向けて、より情報発信してほしい
- ・体調に波があるので宅配サービスには本当にお世話になっている
- ・施設でのボランティア活動で、布の絵本の「触れる」という体験に大変助けられている
- ・点訳資料が届くと、毎回うれしく、読むと感動する

▼第1回目 中央図書館



▼第2回目 調和分館



▼利用支援サービス





市民のおすすめ本

図書館では、市民の読書活動の推進を目的に、生涯学習団体「アカデミー愛とびあ」と協力し、講演会や読書会を開催しています。図書館が主催する読書会では、一冊の本を読んで各自の感想や意見を交換し、本の理解を深めます。

令和7年に実施した「11月の読書会」では、普段の読書会とは趣向を変えて「私のすすめるこの1冊 in 読書会」を開催しました。おもしろかった本や思い出の本など、色々な観点から、参加者の皆さんが選んだ本を紹介し合っていただきました。こちらは紹介いただいた本の一部です。図書館に所蔵がある資料を多く紹介いただいていますので、ぜひお手に取ってご覧ください。

読書会参加者のおすすめ

タイトル	著者	出版社	分類番号
異邦人	カミュ	新潮社	953 カ
海	小川洋子	新潮社	913.6 オ
お探し物は図書室まで	青山美智子	ポプラ社	913.6 ア
カラマーゾフの兄弟	ドストエフスキー	新潮社	983 ト
考える人 2015年冬号 特集：山極寿一さんと考える家族ってなんだ？		新潮社	雑誌
小泉八雲と水木しげるに学ぶ異界の歩き方	小泉凡	マイクロマガジン社	388.1 コ
十月のみずうみ	シンシア・ライラント	偕成社	933 ラ
菅原克己全詩集	菅原克己	西田書店	911.5 ス
地球の歩き方 J28 調布市		地球の歩き方	290.9 チ
ひこばえ	重松清	朝日新聞出版	913.6 シ
一房の葡萄	有島武郎	岩波書店	913.6 ア
フラット登山 ー歩くを楽しむ、自然を味わうー	佐々木俊尚	かんき出版	786.1 サ
BLANK PAGE ー空っぽを満たす旅ー	内田也哉子	文藝春秋	914.6 ウ



読書会に関する最新の情報は、市報又は調布市立図書館のホームページをご覧ください。



イベントスケジュール

4月から6月までの図書館の行事予定です。詳しくは、図書館ホームページ
または館内のポスター、市報等をご確認ください。

4月
4日(土) 公開講座「聖書と哲学ー申命記を 読むー」 たづくり10階1002学習室 10時～正午
11日(土) 公開講座「トルストイ魅惑の『アン ナ・カレーニナ』」 たづくり10階1001学習室 13時～15時
29日(水)～6月30日(火) 図書館開館60周年記念 「ようこそ図書館へ！ シールラリー」
5月
2日(土) 文芸講演会『「赤毛のアン」とプリ ンス・エドワード島の世界」 たづくり12階大会議場 14時～16時
27日(水)～7月26日(日) 中央図書館正面展示 図書館開館 60周年記念「タイトル未定」
6月
10日(水) 6月の読書会『タイトル未定』 たづくり6階601会議室 14時～16時

おはなし会かいのごあんない

◆ちゅうおうとしょかん 〈042-441-6181〉

0・1・2さい	第1・3水 すい よう日 び	10:30～
3さい～小 しょうがくせい 学生	第1・3・5水よう日	15:00～
	第2・4土 ど よう日	10:30～

◆こくりょうぶんかん 〈042-484-2000〉

0・1・2さい	第4金 きん よう日	11:00～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

◆ちょうわぶんかん 〈042-485-2000〉

0・1・2さい	第1・3水よう日	10:00～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

◆じんだいじぶんかん 〈042-485-3350〉

0・1・2さい	第4金よう日	10:30～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

◆じんだいぶんかん 〈042-485-0054〉

0・1・2さい	毎月さいごの水よう日	11:00～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

◆みやのしたぶんかん 〈042-486-5798〉

0・1・2さい	第4水よう日	11:00～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

◆みどりがおかぶんかん 〈03-3300-7672〉

0・1・2さい	第2水よう日	10:30～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:30～

◆ふじみぶんかん 〈042-481-7664〉

0・1・2さい	第4水よう日	10:30～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

◆わかばぶんかん 〈03-3309-3411〉

0・1・2さい	毎月のさいごの金よう日	11:00～
ようじ 幼児	毎週水よう日	15:00～
小学生		15:30～

◆そめちぶんかん 〈042-488-8393〉

0・1・2さい	第3水よう日	10:30～
3さい～小 まいしゅう 学生	第2・4水よう日	15:00～

◆さずぶんかん 〈042-485-1306〉

0・1・2さい	毎月さいごの水よう日	11:00～
3さい～小 まいしゅう 学生	毎週水よう日	15:00～

おはなし会かいは20～30分ぶんくらいです

農村のくらしと贈答文化

関口 宣明のぶあき

贈答の起源は、神に供えた食物を人々が食することにあるとされています。供え物を分かち合うことは、神と人々の関係や、人と人との結びつきを確認することでもありました。それが次第に人間社会へと広がると、贈答は人間関係を保つ習わしとして、くらしのなかに根づいていきました。

1. 人々の絆^{きずな}を深めた共同飲食や贈答

農村のくらしでは、隣近所と協力して行う田植えや草屋根の葺き替えなど、一時的に多くの人手を必要とする作業がしばしばありました。調布では、これらの作業を円滑に進めるために、お互いに手助けしあうことを「エイ（結）仕事」とよんでいます。こうして家族や結婚で結びついた家同士の関係に加え、近隣との関係が強まると、飲食をともにしたり、物のやりとりをしたりする機会も増えていきました。

2. 仮親^{かりおや}慣行の発生と贈答

家を取りまく人間関係のなかでは、実の親だけでなく「第二、第三の親」ともいえる仮の親を他家に頼むことがありました。そこで贈答は、仮親と家族に準じたつきあいを保つための大事な手段となりました。調布では、婚礼の際の「仲人親^{なこうどおや}」をとくに重んじました。正月には鮭^{さけ}を贈り、親戚づきあいをするなど、その関係は生涯にわたるものでした。また、子どもの発育が思わしくない場合や、父親の厄年^{やくどし}に生まれた子どもは前もって頼んだ人に子どもを一時的に「拾^{ひろ}って」もらう「拾い親」の形をとりました。そして、その子どもが三才とか七才になるまで、盆暮れの贈答を欠かさず行いました。

3. 贈答にみるハレの日の食文化

贈答には、婚礼・出産・新築祝いなどのように特定の出来事に応じて行われるものもあります。たとえば誕生した子どもの初節句に、実家や仲人から贈られた人形の返礼として届ける菱餅、柏餅をはじめ、七才の祝いである「帯解き」

には、贈られた晴着などの返礼に紅白の餅をついて届けました。餅は神の魂が宿ると考えられた食物で、ハレの日を象徴す



紅白の餅を入れた飯台

るものです。また神との饗宴^{きやうえん}に必要であったナマグサモノ（めでたい魚やアワビ）は、後にスルメや鯉^{かつおぶし}節に変わり、祝い事には必ず贈答するものでした。乳児の死亡率が高かったころ、これらを共食することで、子どもの無事成長を神に願い、力を合わせて一生の節目^{ふしめ}を乗り越えさせようとしたわけです。

4. 村のくらしに根づいた贈答

仙川^{せんがわ}の旧家に残る明治18（1885）年から昭和32（1957）年までの記録によると、その間に贈答のやりとりがあった家は26軒で、そのうち仲人を含む関係の深い親戚8軒との間では、二世代にわたり、6回から13回の贈答が確認されます。当時は、贈答が家計に影響を及ぼすこともあったので、贈った金品や返礼の品を書き留めて、将来のつきあいの目安とすることで、人間関係に支障が生じないように配慮していました。

今日では、贈答品の多くは流通商品となり、地域文化に根ざしたものは姿を消そうとしています。しかし、贈答という行為自体は人間関係を円滑にするうえで、時代に応じたかたちで今後も受け継がれていくでしょう。

※参考文献：『調布市史民俗編』

刊行物番号

2025-183

図書館だより 第278号

令和 8年3月25日発行 【庁内印刷】

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

Tel 042-441-6181

<https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>

調布市立図書館公式X

図書館のイベント情報
などを発信しています。